

日時 令和2年7月10日（金） 15:25～16:15

場所 大会議室

記録 研究部（伊藤 崇志）

1) 開式（研究部主任）

2) 演習（副校長）

- ・事前に配布したワークシートに記載された事例は全て県内で実際に起きたものである。
- ・今回の研修は「不祥事防止ハンドブック（令和2年3月版）」を読み込んでいくものとなる。
- ・各グループで事前に指定された事例について10分程度話し合い、発表してもらう。
- ・その際、防止策に重点を置く。

【事例1】交通事故（死亡）

- ⇒普段から周囲の教員と交通安全について話題にする（風通しのよい教員集団）。
- ⇒多忙化防止策として退勤時間等を守るよう促す。

【事例2】部活動指導時の体罰

- ⇒複数顧問で指導する。
- ⇒生徒と一対一にならないようにする。

【事例3】部活動指導時のセクハラ

- ⇒生徒を下に見ないように、人権意識を大切に
- ⇒顧問の存在が絶対的なものにならないようにする。

【事例4】個人情報の紛失又は流出

- ⇒USBメモリーを持たない（今後はスマホ内の写真等も取り扱いに注意する）。
- ⇒職員室内の整理整頓の徹底や、教員の多忙化解消が必要。

【事例5】不適切な会計処理

- ⇒現金に触らないようにする。
- ⇒チェック体制など、ハンドブック p.31の内容を徹底する。



【まとめ（副校長）】

- ・懲戒処分や服務規律について改めて確認する。
- ・ハンドブックのチェックシートを活用し、再確認する。
- ・職場で周囲の教員とコミュニケーションを取ることと、「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」を大切にすることが、不祥事防止につながる。



3) 講評（校長）

活発な意見交換がされていた。先日の校長会でも不祥事防止研修会を必ず実施するよう言われている。この臨時休校期間中も今回研修で扱った事例に類するものが発生しているので、再度認識を改めてもらいたい。

4) 閉式（研究部主任）